

石山・芸術の森地域 **芸術の森部会 ニュース**

石山・芸術の森地域では、平成26年度に「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」を設置し、それ以降、地域の4小学校を対象に学校規模適正化についての検討を進めてきました。また、平成27年度からは「部会制」を導入し、「石山部会（石山小学校・石山南小学校）」と「芸術の森部会（常盤小学校・石山東小学校）」に分かれて、より具体的な検討を進めています。

～ このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています ～

**第6回芸術の森部会  
について**

10月3日（月）午後6時から、芸術の森地区会館（芸術の森地区まちづくりセンター）で第6回芸術の森部会を開催し、ときわスポーツコミュニティ広場の測量結果についての報告や新設校とまちづくりセンターとの複合化などについて検討を行いました。

**地域の皆さんから  
寄せられた意見  
について（報告）**

6月に開催した第5回芸術の森部会以降、地域の方から寄せられた意見について、事務局から2件の報告がありました。

- 学校統合に関する検討状況がわかりづらい。転居予定の方から現在の状況を聞かれたのだが、詳しく答えられなかった。統合の場所や時期などについて地域説明会などを開催すべきではないか。
- 市の財政状況が厳しくなっている中で、学校を新築することに疑問を感じる。既存校舎の活用について検討すべきではないか。

（平成28年7月 FAX）

（事務局回答）

今後、学校新設に係る予算の要求等を進めていく段階であり、現時点で開校時期等の正式なご説明ができない状況です。場所や時期が未確定でも現在の検討状況が知りたいとのご要望であれば、随時ご説明に伺いたいと考えていますので、事務局までご連絡をお願いいたします。

- 新設校について「小中一貫校」が想定されているとのことだが、その理念や基本的な内容について詳しい議論や検討がされていないように感じる。「小中一貫校」の概念だけが先行していくようなことがないように、しっかり議論と説明を行ってほしい。
- もし、現在の小中学校間の連携に課題があるのならば、そういった点を整理して方向性を定めていくべきだと思う。
- ニュースなど、さまざまな機会・手段を通じてしっかりと情報提供してほしい。

（平成28年7月 メール）

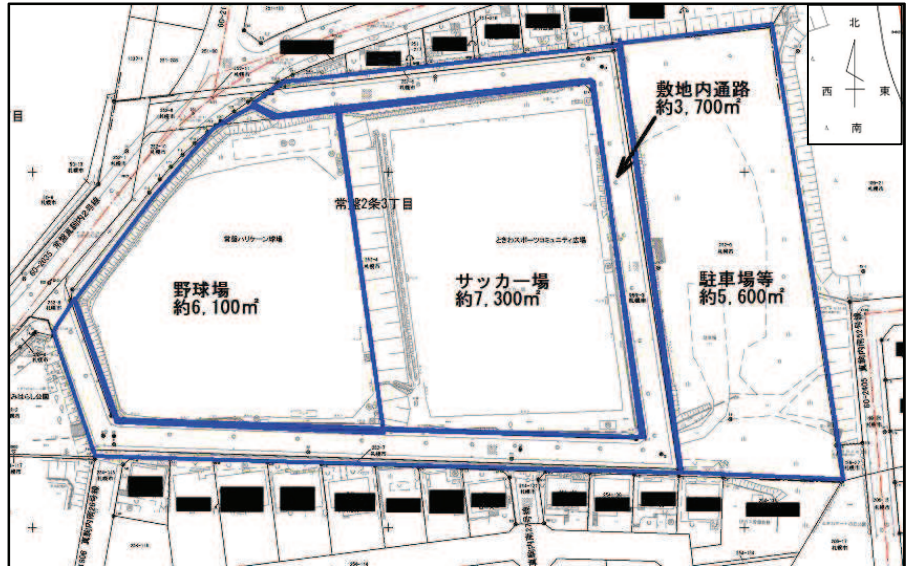
（事務局回答）

現在、教育委員会で小中一貫教育の導入等に関する検討がなされています。その検討状況については、ニュース等で随時ご報告させていただきます。

## ときわスポーツコミュニティ広場の 測量結果等について（報告）

事務局から新設校の建設候補地である「ときわスポーツコミュニティ広場」の測量結果等について報告がありました。

- 期間  
6月13日から8月15日まで（現地作業は7月15日まで）
- 測量結果概要



- ・ 広場の面積は全体で約 22,700 m<sup>2</sup>
- ・ 広場の最大高低差は約 15m  
(道路、野球場、サッカー場、駐車場で約 5 m ずつの高低差)



学校建築が可能なことを確認した一方で、以下の課題も判明

### ○ 1つ1つの段差が想定以上に大きい

- ☞ 既存の段差を活かした建築が困難なため、広い範囲で用地の高さ調整（用地造成）が必要？

### ○ 擁壁の一部老朽化等が進んでいる

- ☞ 場所によっては擁壁の新設費用等が増加？

### ○ 今後

上記課題も踏まえ、教育委員会で学校用地の範囲や施設配置等を検討のうえ予算要求を進める予定

<学校用地の範囲や施設配置等を検討する際の主な観点>

- ・ 児童の通学動線 ・ 車両の動線 ・ 施設やグラウンドの形状
- ・ 用地造成範囲の最小化 ・ 既存擁壁の有効活用
- ・ 近隣への日影 ・ 残地の有効活用 等

## 新設校の施設複合化について

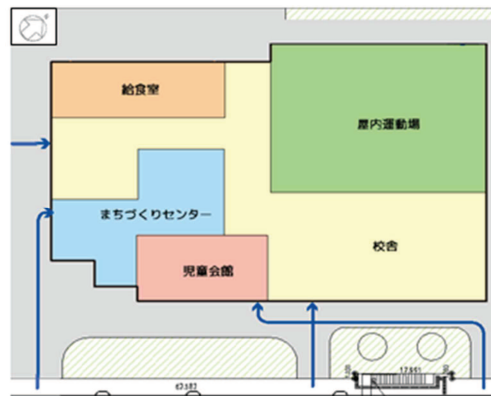
事務局から新設校の施設複合化について説明がありました。

- 施設複合化とは（札幌市の方針）
  - ・ 地域コミュニティの向上や多世代交流の促進を図るため、小学校の建替え時等に、まちづくりセンター（地区会館含む）や児童会館との複合化を検討
  - ・ 複合化については各地域の実情に応じて検討



芸術の森地区の新設校を  
まちづくりセンター等と複合化するか？

- 複合化の主なメリットや課題
  - ・ さまざまな世代が同じ建物内で活動することによる多世代交流等の期待
  - ・ 各施設の機能を相互利用することによる活動の幅の広がり
  - ・ 各施設間で定期的な連絡調整や音等の配慮が必要
  - ・ まちづくりセンター等の場所が変わり、利用者の利便性が低下
- 参考：石山地区の複合化イメージ（施設配置イメージ）



3階	普通教室、特別教室等		
2階	普通教室、特別教室、職員室等		
1階	まちセン	児童会館	屋内運動場、図書室等

※ 学校、まちづくりセンター（地区会館）、児童会館それぞれに玄関を確保

## 両小学校の跡活用の検討方法について

事務局から常盤小学校と石山東小学校の跡活用の検討方法について説明がありました。

### <他地域の跡活用事例>

高等支援学校、私立学校施設、子育て支援等複合施設（まこまる）、多目的広場（野球場等）、高齢者向け施設 等

### <芸術の森地区における跡活用の検討方法案>

- （案1） 「学校規模適正化検討委員会 芸術の森部会」で検討
- （案2） 別途、跡活用を検討するための委員会等を設置
- （案3） 委員会は設置せず、連合会等が主体となって検討

※ 地域検討と並行して札幌市でも利活用調査や地域分析等を実施予定

## 委員から寄せられた意見など

### ◆測量結果の報告について

第6回部会では、委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

- 小中一貫校は、本当にこのまま校舎分離型で進めていくのか。せっかくの機会なのだから中学校のグラウンドに小学校を建設するなどして、校舎一体型の一貫校を目指してはどうか。

(事務局回答)

中学校のグラウンドに小学校を建設した場合、スポーツコミュニティ広場をグラウンドとして使用することが想定されますが、毎回、多くの児童生徒が道路を横断するのは運用上、安全上ともに望ましくありません。また、小中一貫教育に関しては、その導入可否も含めて教育委員会で検討中であり、現段階で「小中一貫校」を作るための予算要求もできません。このような状況を踏まえ、昨年の芸術の森部会では、将来的な「校舎分離型の一貫校」への移行を見据えながら、まずはスポーツコミュニティ広場に小学校を新設する方向で進める旨、ご決定をいただきました。

- 保護者でも「小中一貫校になれば校舎も一つになる」と考えている方は多いと思う。
- 昨年度に部会で検討を行い、校舎分離型の一貫校ということで、教育長あての意見書も提出している。ここまで検討が進んだ段階で方針変更は難しいのではないか。
- まずは既存の小学校施設を活用して統合し、その後、一貫校に関する市の方針が定まり次第、新設校の設計を行えばいいのではないか。
- 2年近く検討して昨年度末にようやく、ときわスポーツコミュニティ広場に学校新設する方針を決定した。一度決定したことを簡単に覆しては議論が前に進まないし、この部会の意味がなくなってしまうのではないか。
- 将来的に小中一貫校を目指す方針は変わらないが、まずは1日でも早く新設校を開校し、子どもたちの教育環境を改善することが重要だと思う。
- 小清水町で道内初の小中一貫校（校舎分離型）を設置する旨が新聞報道されていた。全国的にも施設分離型の一貫校は多数あり、建物が分かれているから一貫教育がうまくいかない訳ではないと思う。
- 地域の方からの意見にもあったが、小中一貫校というものがよくわからず、不安な部分もある。次回部会では小中一貫校の制度等について、事務局から改めて説明してほしい。他都市の事例なども知りたい。

(事務局回答)

資料を用意して次回部会でご説明します。

- 昨年度の検討では、地域や学校が協力して市長や教育委員会に小中一貫校化を積極的にアピールしていくという話だったと思う。建物が別であるにしても、子どもや地域にとって魅力的な学校を検討して、今後もしっかり要求していくべきだと思う。

- 小中一貫校に関して地域の中で誤解が生じている恐れもある。これまでの検討で決定している部分、意見書の内容などをニュースに掲載するなどして、再度周知してはどうか。

**「芸術の森部会ニュース第3号（H27.12.14 発行）」の決定事項より抜粋**

小学校を新設する方向で設計等を進め、札幌市で小中一貫校を導入する方針が定まった際には、小中一貫校（校舎分離型）への移行を目指す。

**「芸術の森地区における学校規模適正化に関する意見書（H28.2.26 提出）」より抜粋**

新設校の開校にあたっては、隣接することとなる常盤中学校との連携強化に取り組むこと。また、芸術の森地区の子どもたちの一層の教育環境向上を図る観点から、札幌市で小中一貫教育を導入する際には、新設校の小中一貫校化について検討すること。検討にあたっては、今後、指定が見込まれる「小中一貫教育のモデル研究校」を、芸術の森地区に導入することを含めて前向きに検討すること。

◆新設校の「施設複合化」について

- まちセン等の複合化は強制なのか。それとも任意なのか。

（事務局回答）

任意です。複合化に関して児童会館は大きな問題はないと考えていますが、一方で、まちづくりセンターや地区会館は、それぞれの地域の事情等もあり、各地域の検討を踏まえて複合化の可否を判断しています。他地域では、実際にまちづくりセンターを複合化しなかった事例もあります。

- この部会で検討して、まちづくりセンターも複合化すべきとなったなら、市が施設の設計段階から入れていくということなのか。国が進めているコミュニティ・スクールの一環ということか。

（事務局回答）

複合化すべきとの結論になれば、それを踏まえて設計等を進めます。また、地域コミュニティの向上等、目的が重なる部分はありますが、文部科学省が進めているコミュニティ・スクールとは必ずしも同じ取組ではありません。

- 仮にまちセンを複合化した場合、現在の施設はどうなるのか。

（事務局回答）

原則売却となります。

- 今後の人口減少を考えると、地域で施設を集約したコンパクトなまちづくりというのも理解はできる。多世代交流の観点からも子どもから高齢者までが集まるような施設があってもいいのではないか。
- 保護者の立場からすると、常に地域の大人の目が届くという意味では、子どもの安全面のメリットはあるように感じる。しかしながら、子どもがいる施設である以上、喫煙や飲酒等は絶対に避けてほしい。
- 複合化については学校側で判断するのは難しいと思う。仮に複合化するとなれば、セキュリティなどに関して要望はあると思うが、一義的には地域の方にご判断いただく必要があるのではないか。
- 連合会の内部でもしっかり協議すべき内容と感じている。持ち帰りのうえ、次回部会で改めて検討したい。

## ◆跡活用の検討方法について

- 検討方法が3案示されたが、いずれも過去に例があるのか。

(事務局回答)

あります。隣の石山地区では、学校規模適正化と跡活用を切り離すべきではないとの理由から部会で継続して検討しています。逆に、学校規模適正化とまちづくりは別という整理から、跡活用を別の検討委員会で議論した地域もありますし、そもそも検討委員会を作らずに連合会等でそのまま議論をした地域もあります。

- 跡活用の決定権はどこが持つのか。地域なのか、行政なのか。

(事務局回答)

跡活用については地域にご検討をいただく一方で、並行して行政内部でも検討をします。このため一概にどちらとは言えませんが、地域と行政で意見を出し合い、結論を出すものと考えています。

- 過去には学校法人等に売却したケースもあるとのことだが、地域が跡活用の要望を出したとしても、市として財政的な理由から売却を提案することはあり得るか。

(事務局回答)

今回、芸術の森地区では、学校統合に伴い、新たな場所に学校を新設する方向で検討を進めています。新設には経費がかかりますので、財政的な面も含めて、既存の小学校の全部又は一部の売却をご提案することはあり得ると考えています。なお、仮に売却をご提案する場合でも、地域に必要な機能等を検証し、それらを担保する方策等を検討します。

- どの方法も一長一短で難しい問題であると思う。これについても、芸術の森の地域性なども含め、次回以降に引き続き検討したい。

## 決定事項

以上の検討から、第6回芸術の森部会では以下を確認しました。

「施設の複合化」「跡活用の検討方法」については、連合会、各小学校で持ち帰りのうえ、次回部会で再度検討を行う。

「小中一貫校」について、次回部会で事務局から改めて国の制度や他都市事例等の説明を行う。

## 第7回の芸術の森部会について

第7回の芸術の森部会は、今回に引き続き「施設の複合化」「跡活用の検討方法」「小中一貫校制度」を議題とし、11～12月ごろの開催を予定しています。

## ■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局  
札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル  
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837  
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載します。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>